

評価・見直し基準の運用について

1. 評価・見直し基準

○基準の対象となる路線は、市が運行する有償バス、乗合タクシーです。

■定時運行している路線（主に鳥取市有償バス）

基準	数値設定	対象路線
1 便当たりの利用者数	2.0人以上	・気高循環バス（気高町、鹿野町） ・絹見バス（青谷町、気高町）
利用者1人当たりの市の補助金額	1,000円未満	・西郷線（河原町）

※西郷線は乗合タクシーですが、全便が定時運行のため定時運行している路線に含めます。

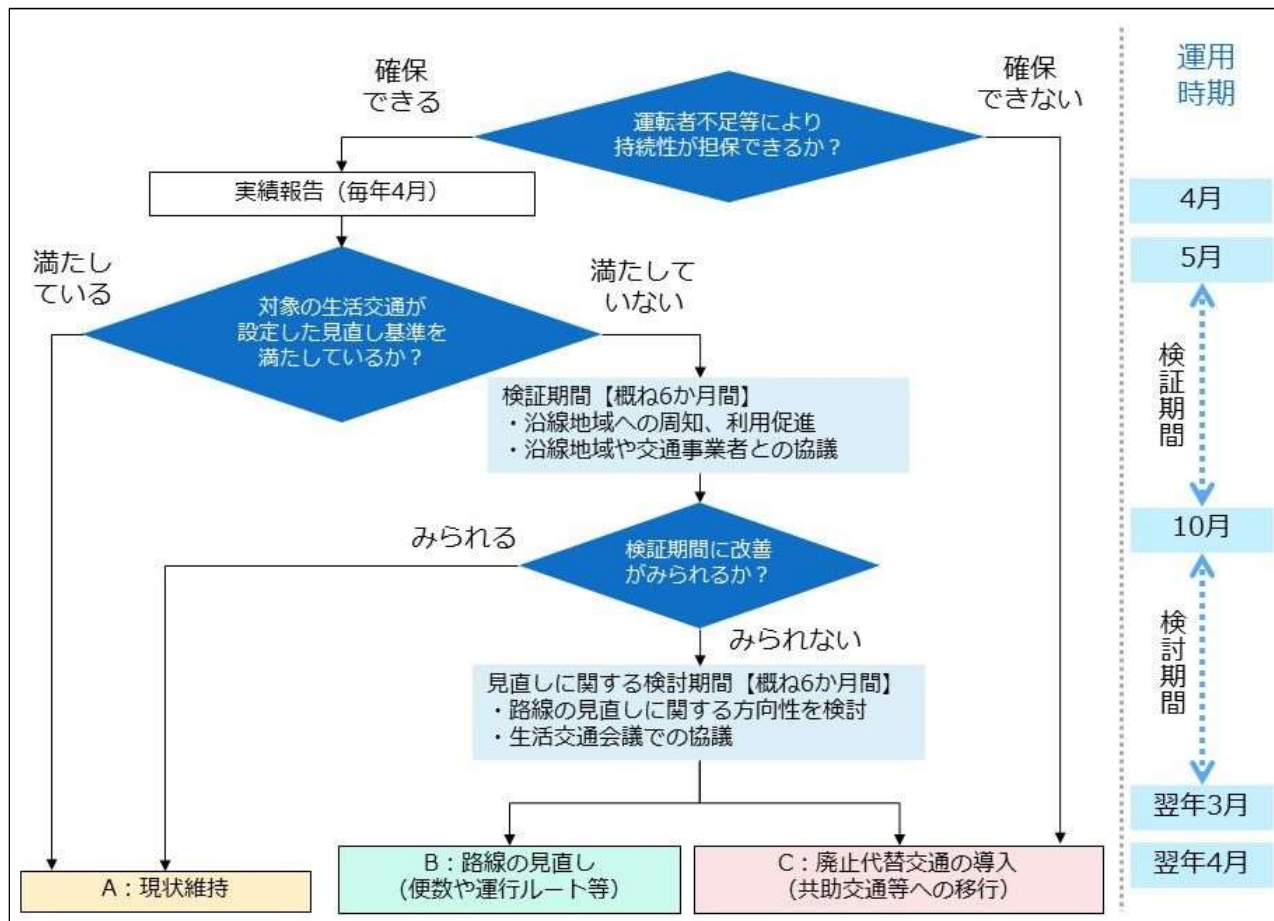
■予約運行している路線（主に乗合タクシー）

基準	数値設定	対象路線
1 便当たりの利用者数	1.1人以上	・吉岡洞谷線（湖南地区） ・雨滝上地線（国府町） ・米里線（米里地区）

2. 評価・見直し基準の運用

- 運転者確保等の状況が最も路線の廃止・減便等に影響を及ぼすことを前提にします。
- 路線の維持が困難な場合、代替交通の運行等により最低限確保すべきサービス水準を確保します。（大幅な利便性低下や交通空白地域の拡大を防ぎます。）

運用フロー



鳥取市生活交通の評価及び対応策（案）について

1. 令和4年度運行実績

評価対象路線	令和4年度運行実績		
	1便当たりの利用者数（人）	利用者1人当たりの市の補助金額（円）	基準を満たしていない路線
市有償バス			
■気高循環バス（気高町、鹿野町）	2.13	2,042	
瑞穂宝木線	1.52	2,708	●
船磯線	2.00	904	
逢坂線	1.64	3,567	●
宝木河内線	3.12	1,391	
■絹見バス（青谷町、気高町）	1.45	1,158	●
絹見線	1.40	1,035	●
浜村青谷線	1.60	1,460	●

乗合タクシー	1便当たりの利用者数（人）	利用者1人当たりの市の補助金額（円）	基準を満たしていない路線
■吉岡洞谷線（湖南地区）	1.07	/	●
■雨滝上地線（国府町）	1.41		
■米里線（米里地区）	1.43		
■西郷線（河原町西郷地区）	2.68		

参考：評価・見直し基準

基準	基準値	
	市有償バス	乗合タクシー
1便当たりの利用者数	2.0人以上	1.1人以上
利用者数1人当たりの市の補助金額	1,000円未満	/

2. 対応策（案）

対象路線	対応策
気高循環バス	令和5年12月にダイヤの見直しを実施予定
米里線	路線・ダイヤの見直しを令和5年4月より実施
吉岡洞谷線	地域に合った交通手段の検討開始
絹見バス	移動ニーズに合った路線・ダイヤの見直しを検討

鳥取市生活交通創生ビジョンに関する取組状況について

推進する取組		令和4年度の実績	令和5年度の実績概要（計画）
1	既存のバス路線の維持・確保	●新型コロナウイルス感染症の影響により、危機的な経営状況に陥った路線バス事業者に対し、運行継続のための緊急支援金（109,000千円）を交付。	【継続】 県や沿線自治体と連携し、運行継続に必要な経費を支援 【継続】 非効率な路線の再編及び代替交通の導入検討
2	生活交通の維持・確保のための仕組み（基準）づくり	●対象地域で利用促進策、代替交通などに関する検討会等(青谷町、気高町、鹿野町、米里地区、吉岡地区) ●乗合タクシー「米里線」のルート、ダイヤの見直しを検討	【継続】 基準を満たさない路線への対応策を検討、実施
3	地域に適した移動手手段の検討	●バス路線や乗合タクシーの廃止や縮小の見込みがある沿線地域を中心に、代替交通の導入に向けた検討を実施（神戸地区、吉岡地区、気高町、鹿野町、青谷町、佐治町） ●神戸地区で乗合タクシーの試験運行を実施（R4.12） ●気高町、鹿野町で定額制乗合交通の実証実験を実施（R4.10） ●青谷町で生活交通の試験運行を実施（R4.11）	【継続】 各地域で最適な生活交通のあり方を検討 【新規】 神戸地区で乗合タクシーを本格運行 【継続】 気高町、鹿野町で定額制乗合交通の実証実験を継続実施 【新規】 鳥取駅南エリアでの定額制乗合交通の実証運行
4	生活交通の担い手不足に対応した支援の在り方の検討	●鳥取商工会議所、鳥取県、（一社）鳥取県ハイヤータクシー協会と連携し、交通業界の若手経営者・後継者を対象に「若手経営塾」を年6回開催	【継続】 若手経営塾の開催 【新規】 運転手確保対策（県事業）と連携した取組
5	生活交通利用の働きかけ（利用促進策の推進）	●高齢者(65歳以上)及び免許証返納者を対象に、バス定期券を定価の半額で購入いただける助成制度を実施 ●小・中学生、高校生を対象に、公共交通機関を利用した通学費の一部助成制度を実施 ●ノルデ運動（ノーマイカー通勤）の実施（期間：令和4年7月～令和5年3月） ●「第4回とっとり交通フェスタ」の開催（開催日：令和4年12月4日） ●県東部地域MaaS協議会を設立し、鉄道・バス共通バスの実証実験を実施(期間：令和4年10月～12月) ●100円循環バス「くる梨」への「ICOCA」導入に向けた環境整備を実施	【継続】 高齢者等の定期券購入助成 【継続】 学生を対象とした通学費助成 【継続】 ノルデ運動の実施 【継続】 とっとり交通フェスタの開催 【継続】 県東部MaaS協議会開催 【新規】 くる梨ICOCA運用開始 【新規】 路線バスのキャッシュレス化に向けた検討
6	生活交通を“創り・守り・育てる”ための意識の醸成	●バス路線や乗合タクシーの廃止や縮小の見込みがある沿線地域を中心に、生活交通の状況や公共交通機関の利用に関する支援制度などについて説明 ●市報、市ホームページ、FMラジオ番組等を活用し、生活交通の状況や公共交通機関の利用に関する支援制度を周知 ●「公共交通乗ってecoh！（行こう）！県民運動」との連携	【継続】 住民説明会等の開催 【継続】 市報、市ホームページ等の広報媒体を活用した広報 【継続】 県民運動との連携
7	生活交通の維持・確保における推進体制の整備	●鳥取市生活交通会議を定期的に開催（6回開催） ●鳥取市共助交通推進連絡会議を発足し、共助交通の推進体制を強化(令和4年7月)	【継続】 生活交通会議を開催（適宜） 【継続】 共助交通推進連絡会議を開催 【新規】 交通を地域の様々な主体で支える体制づくり

【取組状況の関連写真】



■生活交通の試験運行（青谷町）



■共通バス実証実験



■鳥取市共助交通推進連絡会議



■100円循環バス「くる梨」ICOCA導入



■定額制乗合交通実証実験